

先人の精神文化を伝えるものに

本間道男



浦幌町に郷土博物館の設置を——という提言がなされた動機は、北海道開拓百年を記念して事前調査がされた「開拓記念物調査」の結果、貴重なものがあり、

浦幌町開基70年の記念事業として、歴史に残るもの——との話になり、北海道の記念事業の補助金を受けて計画したものであります。

当時、先進町村でありました厚岸町や旭川市などの施設を視察し、社会教育委員の協力を得ながら、資料の収集をし、公民館等に一時保管、施設の完成をみてから展示した訳でありますが、担当者として学識も経験もなく、まったくの素人が考えた展示方法であり、今思えば収蔵室も少なく、固定展示率が高いだけに変化に乏しく、失なわれる資料を応急的に収集展示した程度で、まったく未完成の見本であり赤面の至りであります。

しかし、当時は浦幌高校郷土研究部の皆さんに堀野 昭先生の指導のもと、パノラマ展示室の作成に、日夜苦労をかけ、先人の住居跡の作成をみ、

奥村正人常室小学校長先生には8,000年前を想像してバックの絵を書いていただき、夜通し朝までかかったことなど、苦労をかけたものでした。

また少しでもユニークなものにしたいと、開拓当時の小屋造りや、立木の取付けなど今思えば多くの方々に無理を申し上げご協力をいたいたお陰で開館できた訳でありますし、つきぬ思い出は感謝という言葉あるのみです。

この博物館に提供いただいている品物にいたしましても、調査から考えてみると長い間多くの方々のご協力の賜でありますし、重ねて心から御礼を申し上げます。

浦幌町は開基70年に町民憲章を制定いたしましたが、その中に「開拓精神を受け継ぐ和協浦幌の町民です」と明記いたしましたが、郷土の博物館は目で見る歴史の資料館であり、その中から精神文化も受継いでほしいものと思います。

戦後35年をみましても郷土史に残さなければならないものが山積している訳で、これからは施設の拡充が望まれております。

開館10周年を期に今一度見直すと共に特色ある歴史教育がますます振興いたしますよう、関係者の御協力をお願いして筆をおきます。

(浦幌町長)

目 次

先人の精神文化を伝えるものに.....	本間道男.....	2
開館10周年を迎えて	家村克行.....	3
80年代での浦幌町郷土博物館活動の振興	大井康行.....	3
十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について	松谷暁子.....	5
チャシの橋状遺構について	後藤秀彦.....	13
浦幌町における蝶類の出現期——特にタテハチョウ科についてⅡ——	円子紳一.....	21
アサギマダラ2頭を採集	円子紳一.....	24

表紙写真説明：十勝太西遺跡と十勝太Dチャシ跡 両遺跡は1935年頃発見され、当地区の遺跡中最西端に所在する。十勝太Dチャシは浦幌川・静内川が十勝川と合流する所にあり、昔はここをオベッカウシ（尻を・川・の岸に・くっついている者）と呼んでいた。浦幌町の旧称生剛の原名である。